



西神楽公園キャンプ場

田園風景が広がる丘陵の森の中。自然の息吹がいっぱい。

所在地 旭川市西神楽南1条1丁目西神楽公園内

開設期間 7月1日～8月31日

キャンプ場定員 100名

利用料金 無料

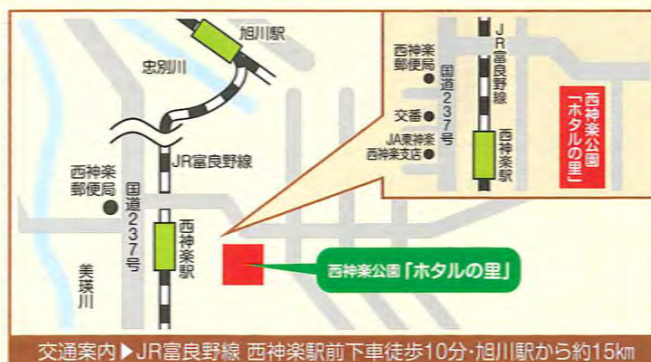
駐車場 公園利用者駐車場あり

申込方法

- ① キャンプ場開設期間中の当日、管理棟に備え付けの使用申込書に記入し、受付箱に投函して下さい。
(所定の申請書があります。)
※申請の際、印鑑は必要ありません。
- ② 小・中学生が宿泊する場合は、保護者が同伴することを原則とします。

注意事項など

- ① 指定された場所以外では、テントの設営、火気の使用はできません。
- ② キャンプファイヤーはできません。
- ③ 公園内(キャンプ場を含む)に車両(バイクを含む)を乗り入れることはできません。(必ず駐車場に止めて下さい。)
- ④ 炊事場や他の施設、用具はみんなが使用する物です。お互い譲り合いながら大切に使用して下さい。
- ⑤ 周辺の民家や他の団体のことを考えて、夜遅くまで騒がないようにしましょう。
- ⑥ 「ごみ」の持ち帰りをご協力ををお願いします。



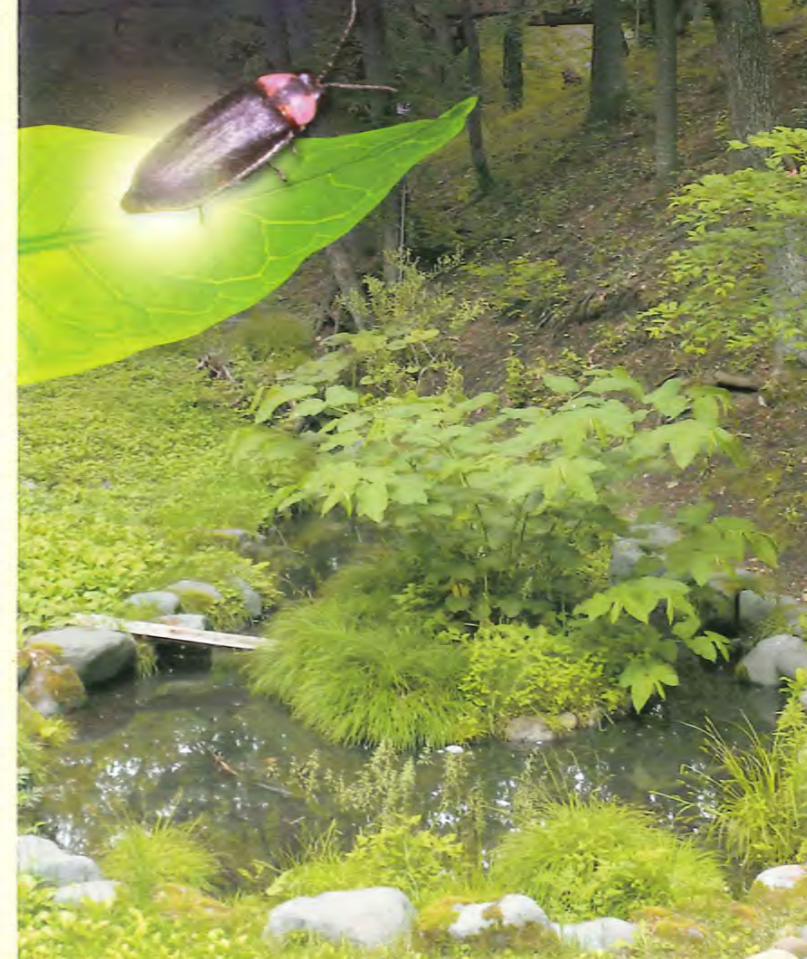
問い合わせ先 西神楽パークセンター
住所:旭川市西神楽南1条1丁目 電話:0166-75-3669

監修:旭川市土木部公園みどり課
企画・発行:財団法人 旭川市公園緑地協会
<http://www.asahikawa-park.or.jp>
協力:旭川市西神楽ホタルの会

西神楽公園

ホタルの里

豊かな自然が、神秘の光につつまれる。



西神楽公園の沿革

西神楽公園は、昭和43年3月1日に旭川市と神楽町の合併の際、近隣公園用地として旭川市が引継を受け、休憩所、遊具等の施設が設置されましたが、施設の老朽化が進み、平成9年に旭川土地改良区より用地を買収し、再整備(3.2ha)したものです。現在は、キャンプ場のほか2本のせせらぎを拠点に本格的な「ホタルの里」づくりが行われ、人々が自然や環境を大切にすることを願い、ホタルの飼育活動も行っています。



秋



冬



春

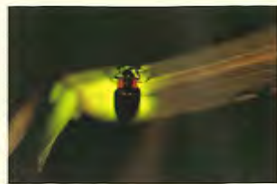


夏

ヘイケボタルの一生



羽化したボタルの生命は、およそ10日間で水だけで生活します。体長は、7~10mmでメスがやや大きく、活動は夜で夜行性です。



ボタルの発光は、愛のシグナルです。オスは主に空中からメスを捜し、メスは葉の上などで様々な発光パターンで存在をアピールします。



羽化したばかりの成虫は、4時間かけて透明な羽がのび、色も白色、灰色、黒色と変わります。これがボタルの一生で1年がサイクルです。



シグナルが合うとオスはメスのものに急行し交尾をします。時には1匹のメスに数匹のオスが群がり、コロニーのようになります。



さなぎは、ゆっくりと成長し、20~30日程で親になり、まゆを割って出てきます。これが羽化です。



交尾を終えたメスは、2~3日の熟成後、約0.6mmの淡黄色の卵をコケなどに産みます。1匹が産む卵の数は50~100個です。



終齢を迎えた幼虫は「さなぎ」になるため陸に上がります。上陸前には、水中の呼吸と変わるため空気に触れる練習を何回か繰り返します。



卵は気温が高ければ2週間ほどで孵化します。孵化した幼虫の大きさは1.5mm程です。

幼虫は水の中で暮らし、約1ヶ月で1回目、3ヶ月で2回目の脱皮をして大きくなります。

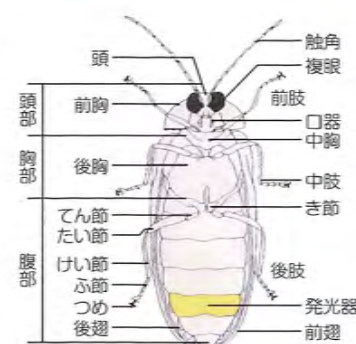
2回目の脱皮した幼虫を3齢と言い、中央の大きい幼虫は4齢幼虫です。幼虫は水の中で4回脱皮し、終齢(5齢)幼虫となります。

西神楽公園 マップ



● ホタルの形態(各部の名称)

- ホタルは節足動物門に属するので、肢(足)はいくつかの節に分かれている。
- カブトムシと同じ甲虫類に属するので、前翅(まえばね)が硬いさやばねになっている。
- 体は頭部、胸部、腹部に分かれる。
- 頭部には口器、複眼、触覚がある。
- 胸部には3対の肢(足)がある。
- 腹部には発光器があり、オスとメスは発光器で見分けることができる。
- ホタルのオスの発光器は腹部第6番目と7番目の節に、メスの発光器は腹部の6番目の節のみにある。



● 一生のうち、最後の10日間だけの神秘的な光

- 旭川のヘイケボタルが観られる時期は7月中旬~8月下旬です。最盛期(7月下旬)には「ホタル祭り in 西神楽」が開催され、この時期は2,000匹以上のホタルが神秘的な光を放ちながら木々の間を乱舞します。
- 一般的には1年で成虫になりますが、中には2、3年かけて成虫になるホタルもいます。成虫になってからは1週間~10日間の短い命を精一杯生きます。

● ヘイケボタルとゲンジボタルの比較

比較項目	ヘイケボタル	ゲンジボタル
前胸背側の紋	紋の縦幅が広い	紋の縦幅が細く、真ん中が○
発光器	♂ ♀	♂ ♀
体長(mm)	オス約8.0 メス約9.0	オス約15.0 メス約18.0
成虫の季節	7月上旬~8月下旬	5月中旬~7月中旬
産卵数(個数)	50~100	500~1000
卵の直径(mm)	約0.6	約0.5
卵の期間(日)	20~25(気温によって異なる)	25~30(気温によって異なる)
すんでいる場所	水田・池・用水路	河川(流水)
幼虫の餌	カワニナ・タニシ・モノアラガイ等	カワニナ

「ホタルの里」づくりと西神楽ホタルの会

平成7年、旭川市は西神楽公園を「ホタルの飛び交う公園」に改修することにしました。それを機会に、かねてからホタルが自然繁殖する「ホタルの里」づくりを夢みていた地元住民が中心となって西神楽ホタルの会を結成し、市が造成した2本のせせらぎを拠点に本格的な「ホタルの里」づくりを開始しました。



現在、西神楽ホタルの会に所属する160名の会員は、西神楽を拠点に旭川全市にホタルを増やしたいという夢を抱いています。そして、やすらぎと感動を与えてくれるホタルが、子供たちの感性を育むとともに、懐かしい心のふる里となり、また人々の自然や環境を大切にすることを願って、ホタルの飼育活動やホタルの里づくりに励んでいます。

「ホタルの里」の成果を発表するホタル観賞会 「ホタル祭り in 西神楽」



会員による受付風景。駐車場誘導や会場案内なども行っています。



毎年7月の最終土曜日から3日間の観賞会で約7000人の人々が訪れます。



産地野菜の直売も会員で行い、楽しいコーナーとなっています。

(財)旭川市公園緑地協会は、旭川市西神楽ホタルの会と共催で「ホタル祭り in 西神楽」を開催しています。